

附指定の概要

【祈祷札 二枚】

＊左「奉轉讀大般若經六百部武運長久処」祈祷札

＊右「奉讀誦如意珠經長栄処」祈祷札

城戸久博士が昭和 12 年に松江城天守で確認したことを「松江城天守」『佛教藝術 60』（毎日新聞社 昭和 41 年）で報告されたものの長く所在が不明であったが、平成 24 年 5 月 21 日に松江神社で再発見された。

慶長十六年の銘があり、松江城天守の完成時期を示す貴重な一次資料として平成 25 年 3 月 29 日に松江市文化財に指定されたが、平成 27 年 7 月 8 日には国宝松江城天守の附指定となった。（松江歴史館蔵）



【鎮宅祈祷札 四枚】

＊右上・下「不動鎮宅真言」

＊左上「加護所住処真言」

＊左下「八字文殊真言」

昭和の解体修理工事（昭和 25～30 年）で天守内の柱や梁から発見された 4 枚の鎮宅祈祷札で、梵字の願文が記されている。打ち付けられていた方位等とあわせ、真言密教の鎮宅の修法を極めて厳密に行なったことを示すもので、他の 2 件とともに、築城に際し三態、三様の祈祷が行なわれたことを示す貴重な資料として平成 26 年 11 月 26 日に松江市文化財に指定されたが、平成 27 年 7 月 8 日には国宝松江城天守の附指定となった。（松江歴史館蔵）



【鎮物 三点】

＊左「槍」

＊右上「祈祷札」

＊右下「玉石」

昭和の解体修理工事（昭和 25～30 年）の際に天守地階の南西隅（裏鬼門）の大根太受け礎石の下から発見された鎮物一式である。築城に際しての地祭りの鎮物であり、発見された祈祷関係の資料の中で最も初期のものであり、他の 2 件とともに、築城に際し三態、三様の祈祷が行なわれたことを示す貴重な資料として平成 26 年 11 月 26 日に松江市文化財に指定されたが、平成 27 年 7 月 8 日には国宝松江城天守の附指定となった。（松江歴史館蔵）

